

参考資料
分類名〔水稻〕

参 2 **除草剤の体系処理を中心とした雑草イネの防除（追補）**

宮城県古川農業試験場

要約

雑草イネの多発する移植栽培ほ場においては、有効除草剤を7～10日間隔で2～3回体系処理することで発生密度をかなり低減できるが、翌作の発生密度を低減するためには収穫期まで残草の抜き取り作業を実施する必要がある。

普及対象：水稻栽培経営体および指導機関
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

除草剤の体系処理を中心とした雑草イネの防除対策は、普及に移す技術第97号指導活用技術2で有効な除草剤と抜き取り作業の効果を示しているが、今回新たに有効な除草剤が確認されたので参考資料とする。

2 参考資料

- (1) 前作に雑草イネが多発した場合に、プレチラクロール、ブタクロール、ペントキサゾン、テニルクロール、カフェンストロール、ベンフレセート、イプフェンカルバゾン、フェノキサスルホン、またはインダノファンを含む除草剤を7～10日間隔で2～3回体系処理することで、抜き取り可能な残草量(10aあたり100株以下)まで雑草イネの発生密度を低減できる(図1、表1)。
- (2) 有効除草剤の体系処理を行っても完全には抑えられないので、残草の抜き取り作業を必ず実施する(図1)。

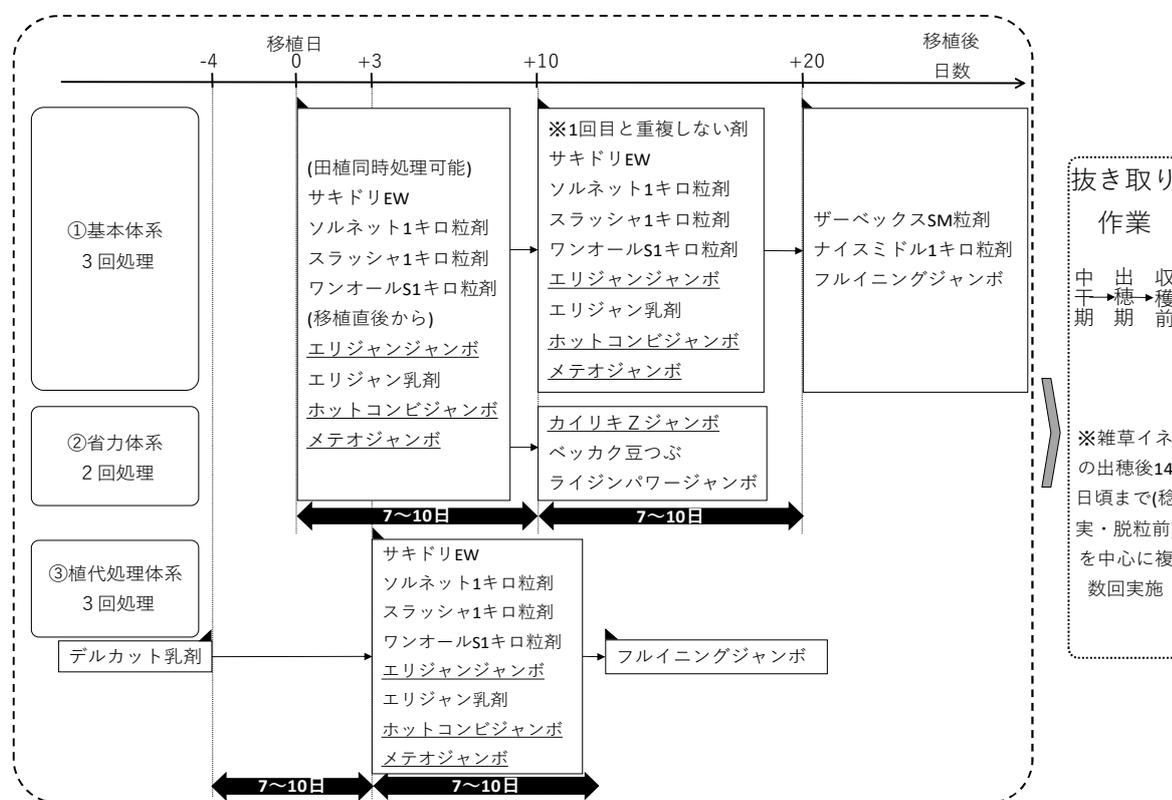


図1 除草剤の体系処理を中心とした雑草イネ防除

注1) 下線を引いた剤が今回追加した除草剤、注2) 農薬成分の総使用回数は表2の注釈を確認すること。

3 利活用の留意点

- (1) 移植時期はなるべく遅くし、雑草イネの出芽を促すとともに、代掻きは荒代と植代の2回に分け、出芽した雑草イネが十分埋め込まれるよう丁寧に行う。
- (2) 水持ちをよくするために畔塗りをを行うとともに、除草剤散布後は止水管理を徹底する。いずれの有効剤も雑草イネが鞘葉期を過ぎると効果が期待できないので、遅れないように体系処理する。
- (3) 有効剤は表2の他、公益財団法人植物調節剤研究協会がHPで公開している剤や、農研機構の「雑草イネ・漏生イネ防除技術マニュアル」に記載の有効剤を農薬登録の範囲内で使用する。
- (4) 雑草イネは作業機械に付着して他のほ場に伝播するので、発生ほ場は最後に作業し、作業後は機械の清掃を徹底する。
- (5) 大豆等畑作物へ転換し、作物栽培中にイネ科対策除草剤で防除することで高い効果が得られるので、転換についても十分検討する。なお、水稻直播栽培は防除が難しいため行わない。
- (6) 雑草イネの種子がこぼれたほ場では、秋耕は行わず不耕起状態で越冬する。

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場 作物栽培部 電話 0229-26-5108）

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間
直播栽培拡大のための雑草イネ等難防除雑草の省力的防除技術の開発（令和元年度～令和5年度戦略的プロジェクト研究推進事業）

- (2) 参考データ

表1 有効除草剤による体系処理の効果（令和4年、A地区）

No.	前年発 生※	移植 時期	除草剤体系 ()内は移植後日数	残草量 (株/10a)	無処理 対比
①	多		サキドリEW(+1) →ベッカク豆つぶ(+11)	4	1%
②	多		2剤 ホットコンビジャンボ(+1) 体系 →ライジンパワージャンボ(+11)	0	0%
③	多	5/19	メテオジャンボ(+1) →カイリキZジャンボ(+11)	11	2%
④	中		エリジャン乳剤(+1) →エリジャンジャンボ(+11)	5	1%
⑤	中	5/25	3剤 →ザーベックスSM粒剤(+21) 体系 エリジャン乳剤(+1) →エリジャンジャンボ(+9) →フルイニングジャンボ(+21)	23	3%
			無処理	667	-

※生産者達観により概ね「中」：100本/10a未満、「多」：100本/10a以上

- (3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

除草剤の体系処理を中心とした雑草イネの防除（第97号指導活用技術）

ロ その他

農研機構「雑草イネ・漏生イネ防除技術マニュアル」

- (4) 共同研究機関

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫部門

表2 雑草イネに対する有効性が確認された除草剤の農薬登録内容(移植水稻)

今回追加した剤 ○印	商品名 (区分別順)	有効成分名・含有濃度 (先頭成分が雑草イネに有効と考えられる)				使用量	使用時期	使用方法
○	エリジャンジャンボ	プレチラクロール 15.0%				小包装 (ﾊﾞｯｸ)10個 (300g)/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(ﾊﾞｯｸ)のまま投げ入れる。
	エリジャン乳剤	プレチラクロール 12%				300ml/10a	植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布
	サキドリEW	ブタクロール 12%	ペントキサゾン4%			500ml/10a	①植代時(移植7日前まで)、②植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで、③移植時	①植代時に原液のまま散布し混和する。②湛水散布 ③田植同時散布機で施用
	ソルネット1キロ粒剤	プレチラクロール 4%				1kg/10a	①植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで、②移植時	①湛水散布 ②田植同時散布機で施用
	デルカット乳剤	ブタクロール 12%	オキサジアゾン8%			500ml/10a	植代時(移植4日前まで)	植代時に原液のまま散布し混和する。または、植代直後原液のまま散布し、ただちに整地板で均平作業を行う。
○	ホットコンビジャンボ	テニルクロール 10.0%	ベンゾピシクロン 10.0%			小包装 (ﾊﾞｯｸ)10個 (200g)/10a	移植直後～ノビエ2葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(ﾊﾞｯｸ)のまま投げ入れる。
○	メテオジャンボ	ペントキサゾン 8.3%				小包装 (ﾊﾞｯｸ)10個 (300g)/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	水口施用又は水田に小包装(ﾊﾞｯｸ)のまま投げ入れる。
○	スラッシュャ1キロ粒剤	プレチラクロール 4.5%	ジメタメトリン 0.6%	ピラゾレート12%	プロモブチド6%	1kg/10a	①移植時、②移植直後～ノビエ2葉期 ただし、移植後30日まで	①湛水散布 ②田植同時散布機で施用
	ワンオールS1キロ粒剤	プレチラクロール 4.5%	シメトリン 1.5%	ピラゾキシフェン 18%		1kg/10a	①移植時、②移植直後～ノビエ2葉期 ただし、移植後30日まで	①湛水散布 ②田植同時散布機で施用
	カイリキZジャンボ	イプフェンカルバゾン 8.3%	テフリルトリオン 8.3%	プロピリスルフロ ン3.0%		小包装 (ﾊﾞｯｸ)10個 (300g)/10a	移植後3日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	水口施用又は水田に小包装(ﾊﾞｯｸ)のまま投げ入れる。
○	ベッカク豆つぶ250	フェノキサスルホン 6%	ピリミスルファン 2%	フェンキノトリオン 12%		250g/10a	移植後3日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布
	ライジンパワージャンボ	インダノファン 2.4%	ピラクロニル 3%	ベンゾピシクロン 6%		小包装 (ﾊﾞｯｸ)10個 (500g)/10a	移植後3日～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(ﾊﾞｯｸ)のまま投げ入れる。
	フルイニングジャンボ	カフェンストロール 4.2%	カルフェントラゾンエチル 1.8%	フルセトスルフロ ン0.44%	ベンゾピシクロン 4.0%	小包装 (ﾊﾞｯｸ)10個 (500g)/10a	移植後5日～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(ﾊﾞｯｸ)のまま投げ入れる。
	ナイスミドル1キロ粒剤	ベンフレセート 6%	シメトリン 4.5%	フルセトスルフロ ン0.22%		1kg/10a	移植後14日～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布
	ザーベックスSM粒剤	ベンフレセート 2%	シメトリン 1.5%	MCPB 0.8%		3kg/10a	移植後20日～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布

注) カフェンストロールを含む農薬の総使用回数は1回以内、プレチラクロール、ブタクロール、ペントキサゾン、テニルクロール、ベンフレセート、イプフェンカルバゾン、フェノキサスルホン、インダノファンを含む農薬の総使用回数はいずれも2回以内(令和5年2月現在)。

※上記剤の使用回数はいずれも1回。 ※モーレツジャンボは販売終了のため削除